

この間、2月27日には所内で考古研究所の最新発掘成果についての報告会があり、3月9日には、漢長安城での5年間の日中共同発掘調査成果について記念講演会をおこないました。町田所長のあいさつに続いて、劉慶柱所長「漢長安城桂宮出土の玉牒研究」、李毓芳研究員「漢長安城桂宮の発見と研究」、張建峰所員「漢長安城桂宮第4号建築遺構の発掘」の講演がありました。OHP、スライドを用いた話は分かりやすく、好評でした。とくに、劉所長が講演した玉牒は、中国最初の出土品であるだけでなく、新の王莽が泰山で封禅を試みた史料を裏づける貴重な発見として、専門家の驚きを誘っていました。

(平城宮跡発掘調査部)

▲ 興福寺中金堂出土鎮壇具の発見 —金色に輝く遺宝—

昨年1月から9月まで続いた興福寺中金堂の調査で、奈良時代初めの創建時の須弥壇築成にともなう鎮壇具の数々が出土しました。興福寺中金堂鎮壇具は、明治の初年に大量に発見され、国宝に指定されています。今回の調査では、明治期に積み直された須弥壇の下層から、明治時代の初めに掘り荒らされた土に紛れ込んだものと思われる^{のべがね}金延金や砂金、水晶玉、琥珀玉、瑠璃玉、和同開珎、真珠玉などがみつかっています。1月30日に興福寺で記者発表をおこないましたが、翌日の朝刊では、多くの新聞が一面にカラー写真を掲載する扱いでした。

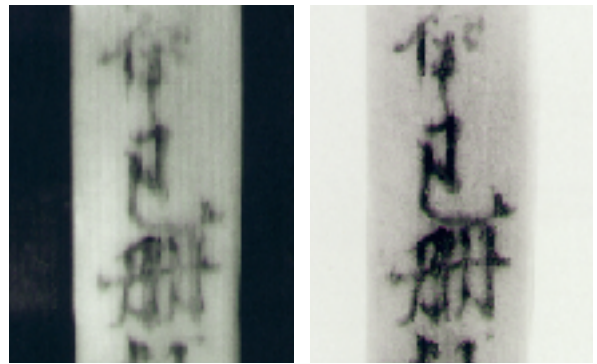
(平城宮跡発掘調査部)



2002年1月31日産経新聞朝刊紙面から

▲ デジタルカメラ CCD の赤外線撮影への応用

平城宮跡発掘調査部の写真資料調査室では、日々の撮影の他に文化財の写真に関する保存や応用の技



赤外テレビカメラの画像 デジカメ CCD 方式の画像

術についても、精力的に取り組んでいます。最近注目された仕事は「キトラ古墳」のデジタルカメラでの撮影でしたが、そのほかにも新しいデジタル技術に応用した調査法を新たに提案し、成果をあげています。

デジタルカメラのCCDは、本来は目に見えない赤外線的光もとらえられますが、通常の撮影ではこの光がじゃまになるので意図的にカットしています。これを逆手にとり通常の光をカットして赤外線的光だけをとらえるようにカメラに細工をして撮影すれば、これまで利用されてきた赤外線フィルムやテレビカメラでの赤外線撮影よりも高精度な赤外線画像を得ることができます。奈文研ではこれを出土した木簡資料の判読や文字情報の詳細な画像記録に役立てています。

また、撮影したデジタルデータは保存の面で問題がありますので、高精度なフィルム出力機により白黒フィルムに出力して保存しています。

(平城宮跡発掘調査部)

▲ 研究会の開催

「わが国鑄銭技術の史的検討」研究集会

飛鳥藤原宮跡発掘調査部では、飛鳥池遺跡から出土した富本銭の鑄造関係遺物をもとに、富本銭の鑄



出土遺物を前にしての検討風景